

日本とフィリピン にルーツを持つ子どもたち

DAWN
来日
公演

劇を通して、
彼らの背景や抱える問題を
考えませんか？



5月19日(火)

13:30～16:00

13:00開場、入場無料

文学部地下大会議室

第1部 イン트로ダクション
JFCの背景を解説

第2部 JFCによる演劇
「THE CRANEDOG」

○JFC(Japanese Filipino Children)とは

1980年代以降、日本人男性とフィリピン人女性の出会いの増加に伴い生まれた日比ダブルの子供たちである。その多くが父親を知らないまま、フィリピンで生まれ育っている。近年、JFCとその母親であるフィリピン女性が来日・定住するケースが急増している。京都大学文学部でも、市内小中学校でのJFCの学習支援ボランティアや、フィリピン政府側との架け橋となる海外派遣プログラムを行っている。

○劇「THE CRANEDOG」のあらすじ

1匹の雌犬と鶴が運命的な出会いをし、彼らは2種類の異なる生き物にも関わらず、互いに恋に落ちる。しかしながら、鶴が雌犬を置いて、自分の地へと帰らなければいけないときが来る。別れの後、雌犬は1匹の雄犬と出会い結婚する。雄犬は雌犬が自分の子ではない子どもを妊娠している事実を受け入れ、雌犬は鶴との間の子であるクレードッグを出産する。そんなクレードッグは成長するにしたがって、自分自身のアイデンティティについて深く悩むようになり、母親から自分の本当の父親が鶴であることを聞き、ついに家を出て、本当の父親を探しに行くことを決心する。

「クレードッグ」は多くのJFCの人生を描いた物語。
これは単なるフィクションではなく、現実なのです。

○主催：文学研究科 安里研究室
○共催：京都大学アジア研究ユニット
○問い合わせ先：
nippi.japan.philippines@gmail.com